

表紙

オガニマル図鑑

Oganimal

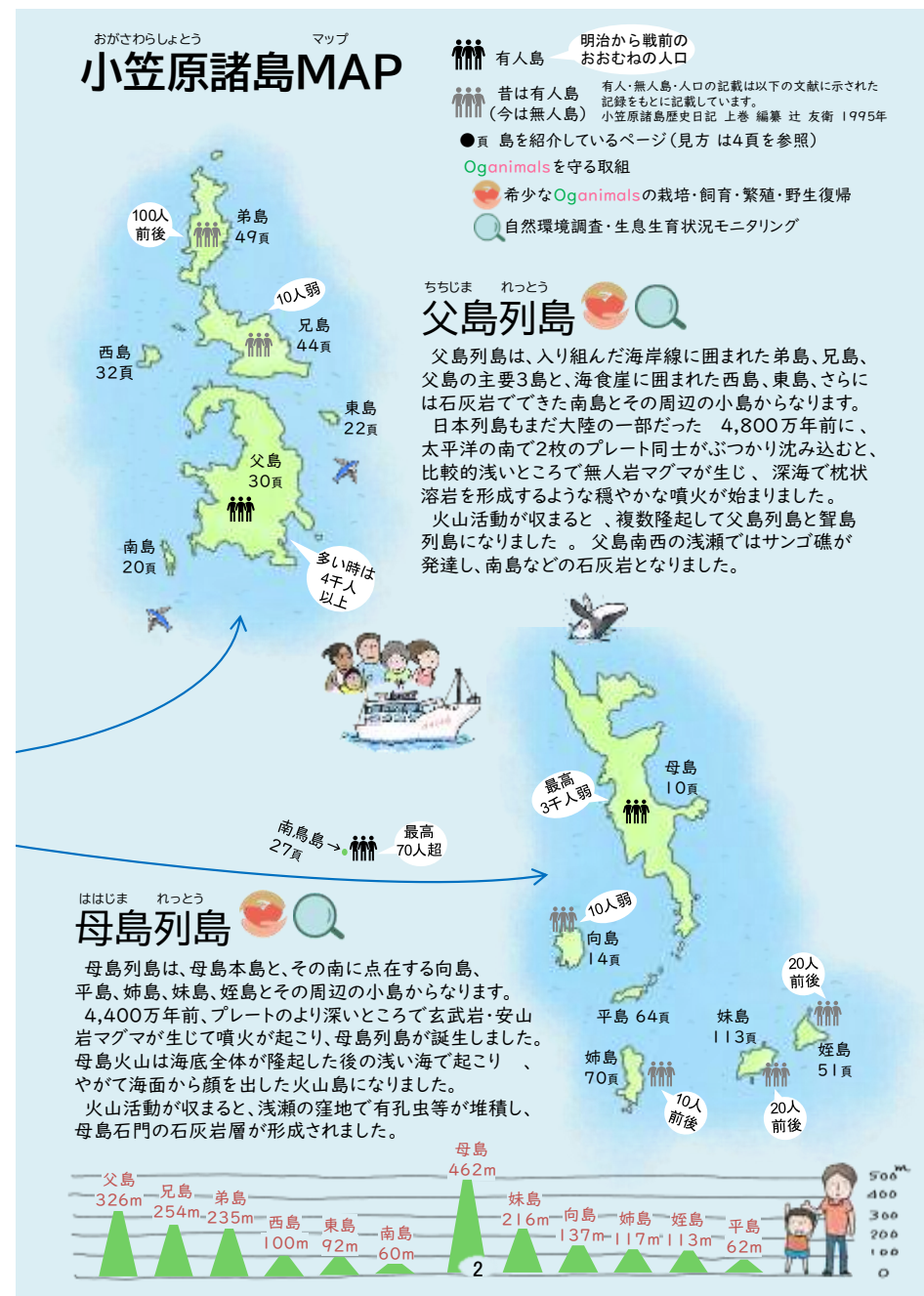
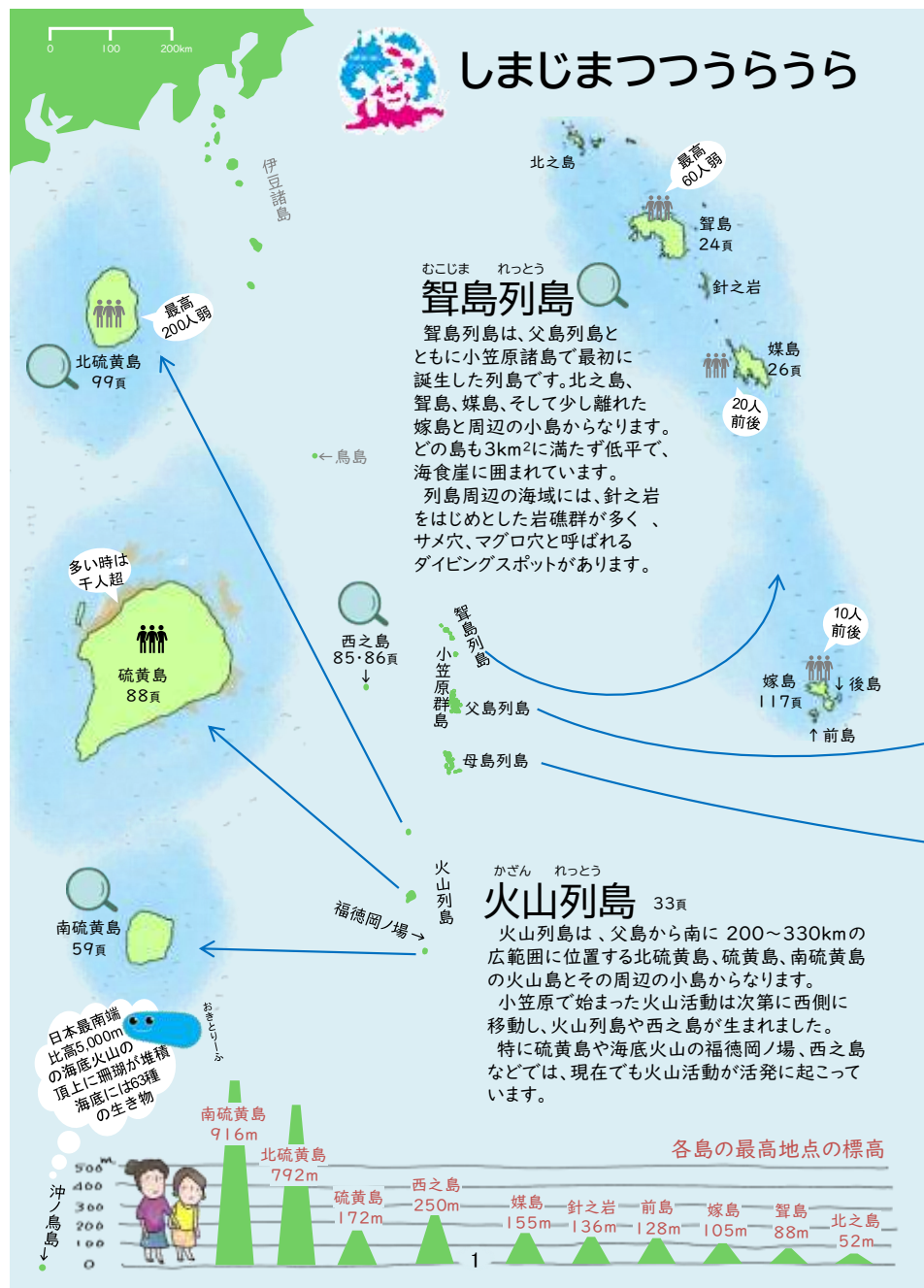
ずかん
s

目次案

しまじまつつうらう小笠原諸島MAP	1
オガニマル図鑑の使い方	3
翼を持つ動物	6
爬虫類	34
虫(等脚類、クモ類含む)	38
水の生き物	92
マイマイのイマ	110
小笠原自然暦	123
索引	●
用語解説	●
参考文献	●

コラム

絶滅した鳥たち	12
世界のオガサワラな生き物	36
オガグワのお話	50
幻の虫たち	66
危ない生き物	87
いなくなったマイマイ	118
マイマイ域外保全	121

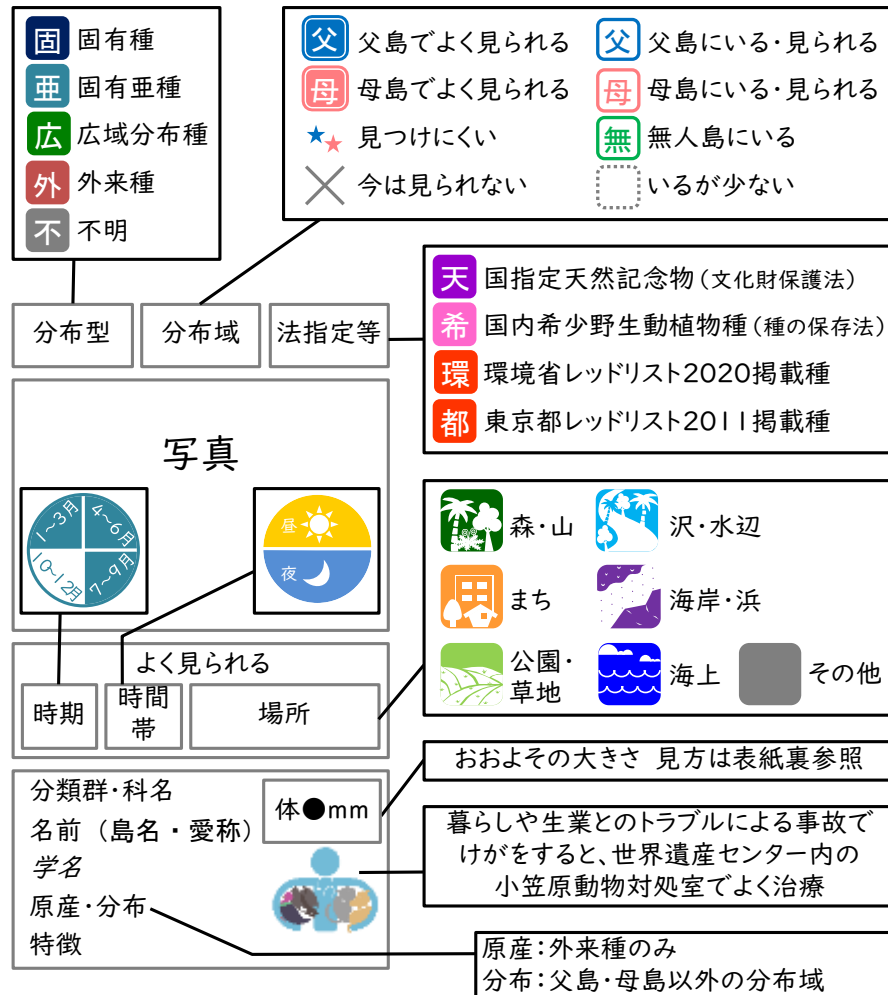


オガニマル図鑑の使い方

Oganimalsの見方

小笠原に生息する鳥類、昆虫類、水生生物、陸産貝類など、父島・母島で見られる身近な生き物を中心に紹介しています。

観察する時は、5頁の注意事項などをよく読んでから出かけましょう。



黒船軍団の見方

Oganimalsの中でも、在来種(固有種・固有亜種・広域分布種)に影響を与えてしまっている外来種たちと、その具体的な対策方法を下表の頁で紹介しています。

黒船軍団	紹介頁	外来種	守るもの	対策方法
おがニャンズ	11	ノネコ	鳥類、哺乳類	カゴわな
マウス三隊	25	ネズミ類	植物、鳥類、陸産貝類	殺鼠剤、カゴわな
父島ヤギ軍	29	ノヤギ	植物、植生	銃器、わな
進撃の木軍	31	外来樹木	植物、植生	伐採、薬剤
アノール忍隊	37	グリーンアノール	昆虫類	粘着トラップ
エイリアン アンツ Alien Ants	73	外来アリ類	陸産貝類	殺虫剤 土付き苗の温浴
ヌメニョロ団	109	プラナリア類 リクヒモムシ類	陸産貝類 昆虫類	靴底洗浄 土付き苗の温浴



しまじまつつうらうらの見方

小笠原諸島の主な島について、特徴のほか、自然環境や生き物たち、それらを守る取組などを1~2頁で表示した頁で紹介しています。

特に各島で行っている外来種対策は、生態系全体のバランスに配慮しながら取り組んでおり、上表のように整理したイラストを表示しています。

Oanimalsを観察する前に

- 捕まえてはいけない生き物（特定外来生物、**希**、**天**）を調べておく
- 動物の捕獲や植物の採集ができない場所（国立公園）を確認しておく
- 危ない生き物（●頁）を調べておく
- 戦跡の壕やぐずれすい崖など、危険な場所を詳しい人に聞いておく
- 立ち入れない場所（森林生態系保護地域※、私有地など）を確認しておく
※指定ルートであれば、講習を受けた人とその同行者のみ立入可能
- **外**を拡げないため、山や水辺に行く時は、服装や持ち物に、種がくっついたり、小さな生き物がまぎれ込んだりしていないかチェックする
- 遠くに出かける時は、なるべく2人以上で、誰かに行き先と帰る時間を伝えておく

こちらも読んでおこう

Oanimalsを観察する時に

- 山や水辺では、決められたルールを守り、遊歩道やルートから外れない
- 危ない生き物や危険な場所には近寄らない
- 生き物を驚かさない、傷つけない、すみかを荒らさない
- 動物の捕獲や植物の採集は、むやみにしない
- 捕まえて観察できる場合でも、見終わったら元の場所に帰し、すみかは元通りに整える

虫除けに明るめの色の服装がオススメ

服装

山 長ズボン、羽織れる長袖、滑りにくい履き慣れた靴・靴下

水辺 ひじ・ひざ下までまくれる長袖・長ズボン、長靴か古い運動靴、手袋

持ち物

帽子、雨具、リュック（両手が空くカバン）、
飲み物（多めが安心）、虫除け・日焼け防止グッズ、
オガニマル図鑑、カメラ、ルーペ、筆記用具
捕まえて観察できる場合：バケツ、ケース、捕虫網

名前も見た目も似て非なる



鳥綱スズメ目メジロ科

体 12cm
翼 18cm

メジロ *Zosterops japonicus*

原産 日本を含めた東～東南アジア
(ただし、国内外に9亜種)

分布 小笠原群島（交雑種※）
※火山列島の亜種イオウトウメジロ
と伊豆諸島の亜種シチトウメジロ
が愛玩用に移入
され交雑

特徴

- ・ウグイスではないが全身うぐいす色で目の周りと胸が白い
- ・交雑した両亜種の間の特徴を持ち、本州の亜種メジロよりも体が少し大きく足や尾がやや長い
- ・花の蜜や実を好むが子育て中は虫も捕る

母島ではメジロとメジロが仲良くいるのを見かけるよ



鳥綱スズメ目メジロ科

体 14cm
翼 10cm

ハハジマメグロ

Apalapteron familiare hahasima

分布 母島、向島、妹島（姪島は絶滅）
※父島と賀島、媒島にはムコジマメグロがいた記録があるが絶滅

特徴

- ・全身うぐいす色で胸と頭は黄色く、目の周りに逆三角形の黒い模様がある
- ・果実と節足動物が好物
- ・鳥のくせに島間を移動しないため、母島列島でもいる島とない島がある
- ・“小笠原村の鳥”で村章にもなっている
- ・最近絵本の主人公にも!

写真



ハハジマメグロは今日も地上を歩いている
小笠原村の紋章にも描かれているメグロは、島を代表するユニークな鳥です。捕食者やキツツキがいない島で進化したので、地上や木の幹でもよく採食します。他の鳥が好まないアリをよく食べるのも特徴です。そんなメグロですが、最近少し影が薄くないですか？世界自然遺産ロゴに描かれたのはアカガシラカラスバトでした。もちろん彼らも大切な種類ですが、メグロも忘れないでくださいね！

おがニャンズ



哺乳綱食肉目ネコ科

イエネコ *Felis silvestris catus*

原産 中東～北アフリカに分布するリビアヤマネコを家畜化(諸説あり)

特徴

- ・体の色や模様・目の色はさまざま
- ・肉食で優れた視覚・聴覚・嗅覚と非常に柔軟な体
- ・縄張り意識が高く、狩猟本能が強い
- ・小笠原のメス^野は1～2回/年、3～5頭/回出産

小笠原ネコプロジェクト

島にやってきた^野が、人に捨てられて^野が増える

1996年 「ハハジマメグロが^野に襲われている」との声
を発端に、みんなで協力してネコ対策を開始

1998年 全国初となる^野条例を制定、翌年施行
小笠原村飼いネコ適正飼養条例
→^野と^野を区別し、^野を生み出さない対策

2006年 関係行政機関や地元NPOによるネコ連が発足
→^野捕獲が本格化
当時:小笠原ネコに関する連絡会議
現在:小笠原ネコに関する連絡調整部会
→本土の動物病院から飼い主へ譲渡→^野

2008～2016年 動物派遣診療で^野飼養も推進
東京都獣医師会協力

2010年 ^野条例改正
→^野登録台帳の更新、^野飼養の推進

2017年 小笠原世界遺産センター内に
開設した小笠原動物対処室に獣医師が常駐
→野生動物を救いながら^野の^野飼養を強化

2020年 対象が^野からペット全般に発展したペット条例
を制定、翌年一部施行
小笠原村愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する条例

野対策と飼対策の両輪

翼のある
動物たちを
守るため

島で幸せに暮らす^野



絶滅した鳥たち

1675年、江戸幕府が嶋谷市左衛門らに命じて辰巳無人島（今の小笠原諸島）を密かに探索し採集した物に、“目白”“五位鷺”“鸚哥”に似る鳥があったそうです。これらは、メグロ^{メグロ}、ハシブトゴイ、オガサワラマシコだと考えられています。

※ハハジマメグロかムコジマメグロかは不明

1828年、父島に來航したロシアの軍艦に同乗していた鳥類学者のキトリツは、オガサワラカラスバト、オガサワラマシコ、オガサワラガビチョウを捕獲し、剥製にして持ち帰りました。同乗した画家がその時の景色を銅板画に描き、後に出版されたキトリツの景観図集には、父島の海岸林内を歩くカラスバト^{メグロ}の姿があります。

※アカガシラカラスバトかオガサワラカラスバトかは不明

1830年以降、小笠原の島々に人が定住すると、自然は大きく変化しました。現在、上記に登場した鳥たちは、アカガシラカラスバトとハハジマメグロを除き、生きている姿を見ることはできません。

<p>固</p> <p>鳥綱ハト目ハト科 体 45cm</p> <p>オガサワラカラスバト <i>Columba versicolor</i></p> <p>特徴 ・アカガシラカラスバトよりもひとまわり大きく、全身が暗灰色で、頭は光沢がある緑色、背中中は紫色 ・高木林で、オガサワラビロウの実を食べていたらしい ・最後の生息記録は1889年の煤島</p>	<p>固</p> <p>鳥綱スズメ目アトリ科 体 18cm</p> <p>オガサワラマシコ <i>Chaunoproctus ferreorostris</i></p> <p>特徴 ・雄は全身がきれいな赤色、雌は黄褐色 ・体の大きさの割にくちばしが太く大きい ・海岸近くの森で、木の実・芽を食べていたらしい ・最後の生息記録は1828年の父島</p>	<p>固</p> <p>鳥綱スズメ目ツグミ科 体 20cm</p> <p>オガサワラガビチョウ <i>Zoothera terrestris</i></p> <p>特徴 ・トラツグミの仲間、全身が褐色で縦じま模様 ・くちばしは細く短い ・海岸近くの森の地面を歩きながら、小型の昆虫や甲殻類を食べていたらしい ・最後の生息記録は1828年の父島</p>
---	---	---

父島

ロストパラダイス ～植生回復踏ん張り中～

小笠原群島で最も大きく、最も多くの約2千人が住む島です。集落や農地、その跡地は、開拓されたことで多くの外来種が定着してしまっていますが、実は小笠原の固有植物の8割以上が生育しています。コウモリやハトの繁殖地も多くある一方で、交通事故やバードストライク等の生活・産業との接点によるトラブルも増えつつあるため、防止策を進めています。

小笠原最大の陸水環境
30余りの河川には多くの
陸水動物が生息



30



面積：23.5km²
最高地点：326m



地元団体によるビーチクリーン
や外来種駆除の取組も盛ん



別名
アカガシラカラスバト
サンクチュアリ



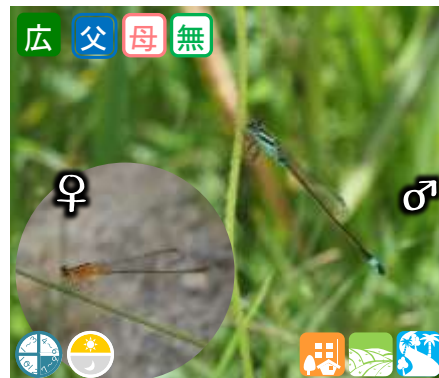
この柵でハト
や植物たちが
守られるね

遺産センターで育て
増やした異島出身の
固有マイマイを移植

マイマイの岩
父島の固有マイマイは
外来ブラナリア類など
によってほぼ絶滅し、こ
にわずかに生息



よく見るトンボ



昆虫綱蜻蛉目イトトンボ科 体 35mm

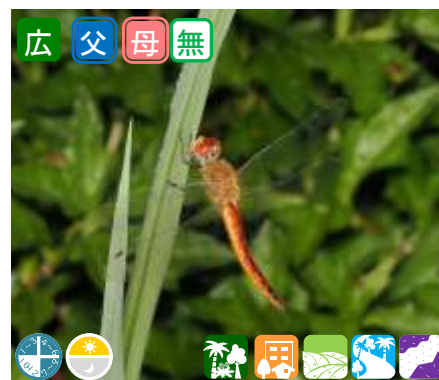
アオモンイトトンボ

Ischnura senegalensis

分布 アジア・アフリカ 日本：本州以南

特徴

- ・オスは胸部が緑色で、腹部の後ろに“青い紋”があり、メスは胸部が橙色とオスに似た体色の2タイプある
- ・集落内でも近くに水辺があれば、出会うことができる
- ・早朝の水辺で、オスが意中のメスを見つけると、長くて午後まで交尾することも



昆虫綱蜻蛉目トンボ科 体 50mm

ウスバキトンボ

Pantala flavescens

分布 世界各地、日本全土

特徴

- ・中型のトンボで、全体的に薄い橙色
- ・渡りをするトンボなので、全国各地で見られるが、ほとんどの飛来先で越冬できずに死滅しているといわれる
- ・街中や芝生、おが丸の横などで群れてちょこまかと飛び回っている
- ・夜の灯りに集まる個体もたまに見られる



昆虫綱蜻蛉目トンボ科 体 50～60mm

ヒメハネビロトンボ

Tramea transmarina

分布 東アジア、東南アジア、オセアニア

日本では、沖縄諸島以南で繁殖

特徴

- ・胸部は暗褐色で腹部は鮮やかな赤色で後翅の付け根に濃い茶色の斑
- ・真夏の暑い中でもかまわずにゆったりと飛び回る
- ・水面の上で、縄張りがかぶったオオギンヤンマを追いかけて回して追い出す様子が見られることがある

45

オガニマル図鑑 生き物リスト

固:固有種 亜:固有亜種 広:広域分布種
外:外来種 不:不明

翼を持つ動物	
オガサワラオオコウモリ	固
アカガシラカラスバト	亜
メジロ	外
ハハジマメグロ	固
オガサワラカラスバト	固
オガサワラマシコ	固
オガサワラガビチョウ	固
オガサワラカワラヒワ	固
オガサワラノスリ	亜
ハシナガウグイス	亜
オガサワラヒヨドリ	亜
イソヒヨドリ	広
トラツグミ	広
アオサギ	広
ダイサギ	広
チュウサギ	広
コサギ	広
オナガガモ	広
ヒドリガモ	広
オオバン	広
ムナグロ	広
キョウジョシギ	広
セイタカシギ	広
カツオドリ	広
オナガミズナギドリ	広
オガサワラミズナギドリ	固
シロハラミズナギドリ	広
オガサワラヒメミズナギドリ	固
クロアシアホウドリ	広

コアホウドリ	広
アホウドリ	広
クロアジサシ	広
ヒメクロアジサシ	広
シロアジサシ	広
アナドリ	広
オーストンウミツバメ	広
クロウミツバメ	固
アカオネツタイチョウ	広
アカアシカツオドリ	広
爬虫類	
オガサワラトカゲ	固
ホオグロヤモリ	外
オガサワラヤモリ	外
ブラーミニメクラヘビ	外
虫(等脚類・クモ類含む)	
オガサワラチビクワガタ	固
オガサワラネブトクワガタ	固
オガサワラゼミ	固
ナンヨウカマキリ	不
オガサワラタマムシ	固
ウバタマムシ	外
シロテンハナムグリ	外
ツヤヒメマルタマムシ	固
ツマベニタマムシ	固
オガサワラハンミョウ	固
アオモンイトトンボ	広
ウスバキトンボ	広
ヒメハネビロトンボ	広
ベニヒメトンボ	広
オオギンヤンマ	広
オガサワラアオイトトンボ	固
オガサワライトトンボ	固
オガサワラトンボ	固

ハナダカトンボ	固
シマアカネ	固
ムニンエンマコオロギ	固
オガサワラコバネコロギス	固
オガサワラクビキリギス	広
ムニンツユムシ	固
ヒメクダマキモドキの一種	不
アニジマイナゴ	固
イソカネタタキ	広
カマドコオロギ	外
ウスグモスズ	外
オガサワラヒラタカミキリ	固
オガサワラカミキリ	固
フトガタヒメカミキリ	広
オガサワライカリモントラカミキリ	固
オガサワラオシロカミキリ	固
スジダカサビカミキリ	広
ヒメカタゾウムシ	固
ハハジマヒメカタゾウムシ	固
スジヒメカタゾウムシ	固
ミナミイオウヒメカタゾウムシ	固
テングヒゲナガゾウムシ	固
オガサワラフトヒゲナガゾウムシ	固
タコノキハモグリゾウムシ	固
カンショオサゾウムシ	外
ルリカメムシ	固
ムニンチビヒラタカメムシ	固 新
オガサワラシロヒラタカメムシ	固 新
オオムラハナカメムシ	固
パラオヒラタカメムシ	広
ムニンアシナガサシガメ	固
ビロウドサシガメ	不
オガサワラシジミ	固
オガサワラセセリ	固

マルバネウラナミシジミ	広
ウラナミシジミ	広
ナミアゲハ	外
アサギマダラ	広
マボロシオオバッタ	固
ミイロトラカミキリ	固
オガサワラゴマダラカミキリ	固
オガサワライラガ	固
チビサザナミシロアオシャク	固
オオサザナミシロアオシャク	広
オガサワラチズモンアオシャク	固
トガリサザナミアオシャク	広
オガサワラムドリノメイガ	広
ホラズミクチバ	固
ミカヅキホラズミクチバ	固
キシタアシブトクチバ	広
オオシラホシアシブトクチバ	広
オガサワラオオアリ	固
オガサワラアメイロアリ	固
オオハリアリ	広
アワテコヌカアリ	外
オオシワアリ	外
ヒゲナガアメイロアリ	外
ナンヨウテンコクオオズアリ	外
オガサワラクマバチ	固
イケダメンハナバチ	固
アサヒナハキリバチ	固
オガサワラツヤハナバチ	固
オガサワラスナハキバチ	垂
セイヨウミツバチ	外
チャイロネッタイスズバチ	外
オガサワラスナゴミムシダマシ	広
ニジュウヤホシテントウ	外
ダイダイテントウ	外

ツマアカオオヒメテントウ	外
オガサワラニセクビホソムシ	固
モンセマルホソヒラタムシ	固
ヤニロハサミムシ	外
コヒゲジロハサミムシ	外
オガサワラシロキジラミ	固
ギンネムキジラミ	外
ヒメサツマキジラミ	固
ガジュマルクダアザミウマ	外
オガサワラグンバイ	固
ウスチャバネヒメカゲロウ	広
オガサワラカスリウスバカゲロウ	固
カオマダラクサカゲロウ	広
セボリヤブカ	固
オガサワラマルズヤセバエ	広
オガサワラキンバエ	固
キンバエ類	外
イエシロアリ	外
ヤマトシロアリ	外
ダイコクシロアリ	外
ワモンゴキブリ	外
コワモンゴキブリ	外
オガサワラゴキブリ	不
ミナミヒラタゴキブリ	不
オガサワラウスヒラタゴキブリ	垂
オガサワラハイロカミキリモドキ	垂
ナンヨウチビアシナガバチ	外
マダラサソリ	外
オオムカデ	外
オガサワラハヤシワラジムシ	固
ホソワラジムシ	広
コシビロダンゴムシの一種	広
テナガカニムシ	固
サワダムシ	固

ボウニンアカヤスデ	固
ヤケヤスデ類	外
オガサワラオニグモ	固
アシダカグモ	広
ヒメシロカネグモ	固
アゴトゲシロカネグモ	不
ハマゴミグモ	固
ヤサガタアシナガグモ	広
トゲナガアシナガグモ	広
タイリクアリグモ	広
アダンソンハエトリ	外
ホシスジオニグモ	不
ナンヨウヨロイアギトグモ	外 新
水辺・水中の生き物	
アシブトメミズムシ	広
ヤセタマカエルウオ	広
ナンヨウミズクラゲ	広
オガサワラスガイ	固
オガサワラアオガイ	広
クサイロイシダタミ	固
カサガイ	固
シワガサ	広
クロカラマツガイ	固
アシナガフナムシ	固
ツノメガニ	広
ミナミスナガニ	広
オオイワガニ	広
オガサワラベニシオマネキ	固
ヒライソガニ	広
ヒライソモドキ	固
オガサワラクロベンケイガニ	固
オガサワラコテナガエビ	固
チチブモドキ	固
オガサワラクロサギ	広

ウズラタマキビ	広
ヒメウズラタマキビ	広
オハグロガキモドキ	広
オカヤドカリ	広
ムラサキオカヤドカリ	広
ナキオカヤドカリ	広
サキシマオカヤドカリ	広
オオナキオカヤドカリ	広
オオトゲオカヤドカリ	広
ヤシガニ	広
ヘリトリオカガニ	広
カクレイワガニ	広
オオカクレイワガニ	広
グッピー	外
カダヤシ	外
カワスズメ(モザンブークティラピア)	外
ナイルティラピア	外
オガサワラヨシノボリ	固
タネカワハゼ	広
ボウズハゼ	広
ルリボウズハゼ	広
ナンヨウボウズハゼ	広
オオウナギ	広
オガサワラヌマエビ	固
トゲナシヌマエビ	広
ヤマトヌマエビ	広
ヒメヌマエビ	広
コンジナテナガエビ	広
ヒラテナガエビ	広
オガサワラアメンボ	固
オガサワラケシカタビロアメンボ	固
ケブカオヨギカタビロアメンボ	固
ナガレフナムシ	固
オガサワラフナムシ	固

オガサワラコツブムシ	固
チチジマコツブムシ	固
オガサワラカワニナ	固
ヌノメカワニナ	外
ヒラマキガイの一種	不
サカマキガイ	外
カワコザラ	不
オガサワラニンギョウトビケラ	固
小笠原のトビケラ5種	固 新
陸産貝類	
アケボノカタマイマイ	固
コガネカタマイマイ	固
オトメカタマイマイ	固
ヒメカタマイマイ	固
オガサワラオカモノアラガイ	固
テンスジオカモノアラガイ	固
スバスバヤマキサゴ	固
ハゲヨシワラヤマキサゴ	固
トライオンノミガイ	固
オガサワラノミガイ	固
ボニンスナガイ	固
アニジマヤマキサゴ	固
ウスカワマイマイ	外
ミヤコマイマイ	外
アフリカマイマイ	外
オオオカチョウジガイ	外
アジアベッコウマイマイ	外
オキナワベッコウマイマイ	外
ヤマナメクジ	外
チャコウラナメクジ	外
エンザガイモドキ	固
オガサワラキビ	固
エンザガイ	固
アカビシヤマキサゴ	固

チチジマレンズガイ	固
カタマイマイ	固
キノボリカタマイマイ	固
ハタナリエンザガイ	固
マルクボエンザガイ	固
チチジマエンザガイ	固
チチジマキセルモドキ	固
外来種対策の主な対象種	
イエネコ	外
クマネズミ	外
ドブネズミ	外
ハツカネズミ	外
ヤギ	外
ギンネム	外
トクサバモクマオウ	外
リュウキュウマツ	外
アカギ	外
ガジュマル	外
シマグワ	外
キバンジロウ	外
ランタナ	外
グリーンアノール	外
ツヤオオズアリ	外
アシジロヒラフシアリ	外
ニューギニアヤリガタリクウズムシ	外
エリマキコウガイビル(仮称)	外
リクヒモムシの一種	外
その他	
クワノハエノキ	広
オガサワラグワ	固
オオヒキガエル	外
アコウザンショウ	固
ハゼノキ(リュウキュウハゼ)	外